伊那市·伊那市社会福祉協議会

目指せ! 逃げ遅れゼロ!

~地域をつなぐ災害時住民支え合いマップ~



災害時住民支え合いマップ作成の目的

- 1 災害時に支援が必要な人の「逃げ遅れ」を防ぐ地域づくり
- 2 安否確認、見守り活動など日頃からの支え合いの地域づくり

災害時住民支え合いマップとは・・・

災害時・緊急時に支援が必要な人に対して**いつ、だれが、どのように、**安否確認や避難行動の支援などをするのか考えるために行う、

- ② 話し合った結果を地図に書き込むこと
- 必要な人を支援するための計画づくり

この3つを合わせて

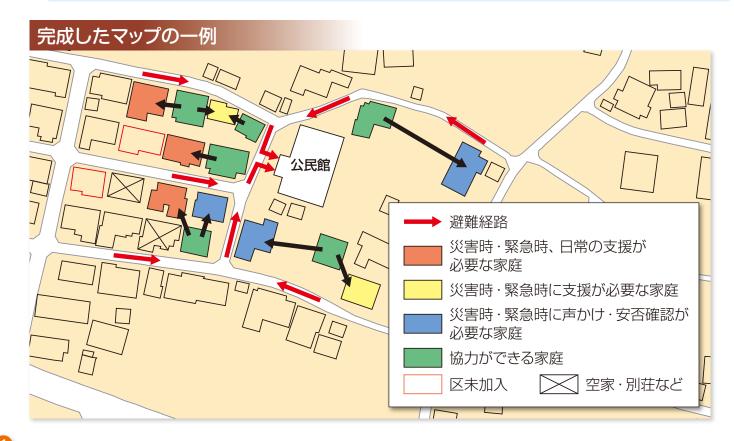
「災害時住民支え合いマップ」といいます。

(以下では「マップ」と略称します。)











1) マップの作成スケジュール(例)



年間計画

| | 月 | 内 容 | | 役割分担(※) | 関係書類等 | |
|--------|----------------|---|--|--------------------------------|--|--|
| 準備 | 4月 ~ 5月 | 学習会の開催 | ●「福祉懇談会」 や「お出かけ講 座」などを利用 し、マップ作り について学ぶ | 地区役員・住民 | * 「お出かけ講座」を希望する場合は、伊那市又は、 市社会福祉協議会へご連絡ください。 | |
| マップ作り | 5月 ~ 6月 | 住民へ周知 | ● 地区の方針や、 取組方法を説明 する | 区長➡常会長 ➡班長 (取組方針の伝達) | 「資料1」(ちらし) 「資料2」(依頼文) 「資料3」(調査票兼同意書) | |
| | | 依頼文・調査票の配布 (支援が必要な人を把握) | ● 協力を依頼する | 班長➡各家庭 | | |
| | | 調査票の回収・まとめ | 各家庭から提出 された調査票を まとめる | 各家庭➡班長 | 「資料3」(調査票兼同意書) | |
| | 7月 ~ 8月 | マップ作り 避難訓練の計画 (支援が必要な人を決める) (支援できる人を決める) | みんなで話し合い、マップを作る避難訓練の内容を計画する | 地区役員+住民 | 「資料3」(調査票兼同意書) 住宅地図など | |
| 活用・見直し | 9月 | マップの活用 避難訓練の実施 | ● 防災訓練に合わせて、避難訓練を実施する | 地区役員+住民 | | |
| | 10月 | 避難訓練の反省 マップの見直し | 避難訓練の反省をする課題をもとにマップの修正や、体制の見直しをする | 地区役員 班長 | | |
| | 11月 | マップの提出 | ● 班長から常会長 を経由して区長 へ提出する | 班長 → 常会長 → 区長 | マップ | |
| | 12月 ~ 3月 | マップの修正 書類引継 | マップの内容に変更があった場合は随時修正する新旧役員の引継会でマップなど書類を引き継ぐ | 班長 常会長 区長 | パンフレット 引継書 マップ など | |

2 マップの作成時の役割(例)



1 住民

- ◆ 災害時・緊急時に避難行動ができない場合は、支援が必要であることをあらかじめ表明します。
- ◆ 支援を希望する人が近所にいる場合には、助ける側として協力します。

🕗 地区役員(自治会・区)

- ◆ 主体となって方針を示し、住民の協力を得ます。
- ◆ 作成は班や組など、できる限り最小単位で作成します。
- ◆ 支援が必要な人を把握するとともに、助ける側の人のピックアップを行います。

🕞 自主防災組織

◆ 地区内や近所で支援が必要な人の把握に協力します。

4 地区社協・地域社協

◆ 地区内や近所で支援が必要な人の把握に協力します。

長生児童委員

◆ 作成の補助や内容確認をします。

伊那市、伊那市社会福祉協議会

◆ 作成を支援するとともに、相談窓□になります。





3 マップの対象者の区分けと支援方法(例)



| 色分け | 支援の形態 | 対象者 | |
|-----|----------------------------|---|--|
| 赤 | 災害時・緊急時のほか、 日常生活でも支援が必要 | 日常的に福祉サービスや介助を受け ている人や、危険の判断ができない 人、情報を得られない人 | |
| 黄 | 災害時・緊急時に支援が 必要 | ひとり暮らし高齢者(日中ひとり暮ら し高齢者)や障害者などで、支援が あれば避難可能な人 | |
| 青 | 災害時・緊急時に、声か けや安否確認が必要 | 日常生活は自立しているが、災害 時・緊急時には配慮したい人 | |
| 赤枠 | | 区に加入していない人 (アパート等で自立の度合いが不明な人など) | |
| | 空き家・別荘など | | |
| 緑 | 声かけ・安否確認など助ける側として協力ができる人 | | |

各家庭に配布する調査票の内容 ※この調査票には、居住している人全員を記入し 調査票に記入を依頼 氏 名(世帯主) 住 所 隣組名 該当へ○印 年齢層 必要な支援(助けてほしいこと)の選択(○印) (名前の記入も可) ^告かけ・安否確詞 などの協力が できる人(○印) 家族 No 災害時・緊急時に A~Eの中 男性 女性 から選択 支援が必要 1 2 マップに色別で表示 公民館 5際の注意事項等をご記入ください。

4 マップの作成手順(例)

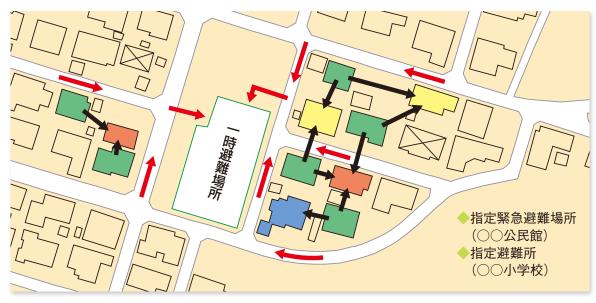


→ 事前の準備

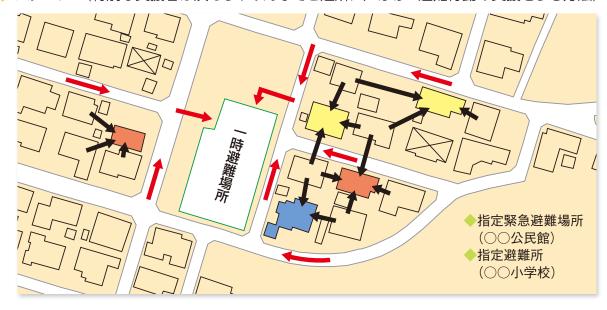
- ◆マップの作成にあたり、住民への周知は行いましたか?
- ◆ 調査票の回収など、支援を必要とする人の同意は得られていますか?
- ◆ マップの作成について話し合う日を設定しましたか?

🕜 マップ作成:みんなで話し合いをしながら、地図へ情報を書き込む

◆ パターン1(支援する人を決めて、声かけや避難行動の支援をする方法)



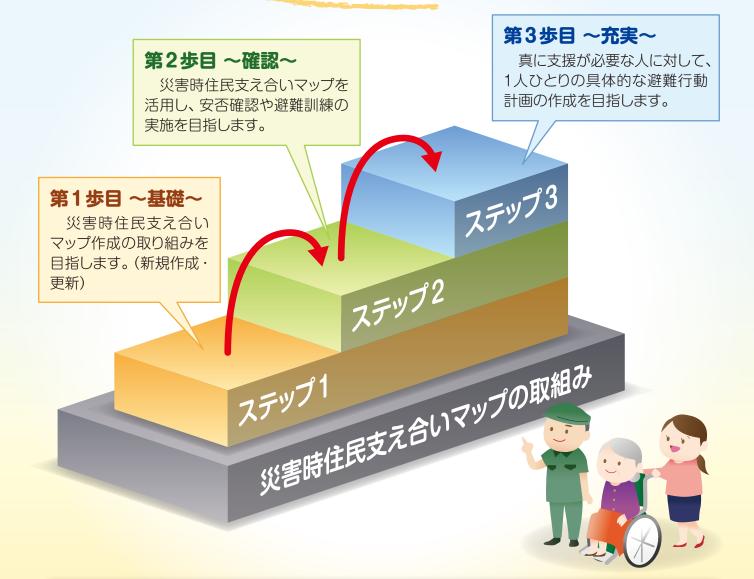
◆ パターン2(特別な支援者は決めず、みんなでご近所に声かけ・避難行動の支援をする方法)



- **6** 内容確認
- ◆ 地図を見ながら災害時の対応や不安について、みんなで話し合う
- ◆ 支援が必要な人にも災害時の行動などを具体的に伝えておく
- 🛂 見 直 し

※一 時 避 難 場 所: 地域で安否確認などを行う場所 指定緊急避難場所: 緊急的に危険から逃れる場所 指 定 避 難 所: 長期的に避難生活を行う場所

今後の取組み方針



- ◆ 「支援が必要な人」には、日頃から災害時・緊急時の行動や、支援の方法 (誰が声をかけてくれるのか? いつ来てくれるのか? どんな準備をして おくのか?) などを具体的に伝え、不安を取り除いておくことが大切です。
- ◆ 「支援が必要な人」には、災害時・緊急時に困ることを事前に伝え、必要 な支援を得られる準備をしてもらいましょう。

災害は絶対にきます!

その時、あなたは誰を助け、誰に助けられますか?

一人の逃げ遅れも出さない 犠牲者を絶対に出さない

「備えていてよかった」と言える地域づくりを「今」はじめましょう!

OOZCIA

目指せ! 逃げ遅れゼロ!

災害時住民支え合いマップづくり

に取り組みます!

豪雨、地震などの災害は毎年発生しています。 被災地では「まさか自分達が…」という言葉が 必ず聞かれます。

●●区にも災害はやってきます!

「備えていてよかった」と言える地域づくりを「今」はじめましょう!





災害時住民支え合いマップとは・・・

災害時・緊急時に支援が必要な人に対していつ、だれが、どのように、 安否確認や避難行動の支援などをするのか考えるために行う、

- በ みんなで話し合うこと
- ② 話し合った結果を地図に書き込むこと
- 🚱 必要な人を支援するための計画づくり

この3つを合わせて

「災害時住民支え合いマップ」といいます。



近年の災害では、高齢の方や障害のある方など、避難に支援を必要とする方が取り残されて亡くなっています。逃げ遅れゼロを目指し、地域の皆様を対象に調査を実施します。個人情報の扱いには十分配慮を行いますので、ご理解とご協力をお願いします。

この様式はホームページからダウンロードできます。

(例:依頼文)

○○○区のみなさまへ

○○○区 区長 ○○ ○○

災害時住民支え合いマップ作りへの協力のお願い

日頃より、〇〇区の活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

今年度○○区では、災害に強いまちづくりを目指し、災害発生時に 高齢者や障害者、子どもといったいわゆる災害弱者に対する安否確認 や、迅速な行動支援を共に行う備えとして、災害時住民支え合いマッ プ作りに取り組むことといたしました。

災害時住民支え合いマップは、災害時はもとより、地域の高齢者等への見守りなど、地域福祉活動にも役立つもので、マップ作りのため地域の皆様を対象に調査を行い、班(組)ごとの話し合いなども実施する予定です。

マップの作成にあたっては、個人情報の扱いには十分配慮を行いますので、趣旨をご理解いただき皆様のご協力をよろしくお願いします。

問い合わせ先

まで

(例:調査票・同意書)

災害時住民支え合いマップ作成調査票兼同意書

記入年月日(年月日)

| ※この調登祟には、居住している人全員を記入してくたさい。 | | | | | |
|------------------------------|--|--|--|--|--|
| | | | | | |

 氏名(世帯主)

 住所

 隣組名

| 家族 No | 該当へ〇印 (名前の記入も可) | | 年齢層 | 必要な支援 (助けてほしいこと) の選択 (○印) | | | 声かけ・安否確認 |
|----------|--------------------|----|---------------|---------------------------|-------------------|-----------------------------|--------------------|
| | 男性 | 女性 | A~Eの中 から選択 | 災害時・緊急時・ 日常の支援が必要 | 災害時・緊急時に 支援が必要 | 災害時・緊急時に 声かけや安否確認 が必要 | などの協力が できる人(〇印) |
| 1 | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | |
| 4 | | | | | | | |
| 5 | | | | | | | |
| 6 | | | | | | | |
| 7 | | | | | | | |

※年齢層の選択

| А | 0歳~12歳 |
|---|-----------|
| В | 13歳~18歳 |
| С | 19歳 ~ 64歳 |
| D | 65歳~74歳 |
| E | 75歳以上 |

| 家族No | 実際の支援方法や支援する際の注意事項等をご記入ください。 |
|------|------------------------------|
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

【例】車いすでの移動が必要、酸素吸入を行っている、 耳が遠く情報が得られない、放課後子ども達だけで留守番など

ご確認ください

この調査内容を、**災害時住民支え合いマップの作成(地域での話し合い、地図への記載)** 及び災害時・緊急時における支援活動に使用することに同意しますか。

□ はい □ いいえ

- ※関係機関への情報提供は、災害時・緊急時において、救助・支援を目的とする場合にのみ行います。
- ※「いいえ」とお答えいただいた場合、安否確認や支援等が遅くなる場合があります。
- ※この調査は関係者に法的な責任や義務を負わせるものではありません。
- 調査票は、原本を(班長・組長)が保管し、支援が必要な方のみ災害時住民支え合いマップへ反映します。
- 完成した「災害時住民支え合いマップ」は、(班長・組長)、(区長)が一部ずつ保管します。
- 支援の方法などについて、後日役員が確認に伺う場合があります。

この調査に関するお問い合わせは、〇〇〇〇までお願いします。



災害時住民支え合いマップパンフレット

平成31年3月作成

ご不明な点等はお気軽にお問い合わせください

伊那市役所 社会福祉課・危機管理課

〒396-8617 伊那市下新田3050番地

TEL 0265-78-4111 (代表)

● 伊那市社会福祉協議会 地域福祉課 地域福祉係

〒396-0023 伊那市山寺298番地1

TEL 0265-73-2541

※各種様式は、伊那市及び伊那市社会福祉協議会のホームページから ダウンロードできますので、ご活用ください。

この冊子は、翌年の役員に引き継いでください。